

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	歴史的街並み保存活用事業			事業コード	2261
所属コード	132000	課等名	商工観光部観光課	係名	観光企画担当
課長名	吉田 春彦	担当者名	佐々木 伸司	内線番号	3722
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	地域資源をいかした観光・物産の振興	コード	4
	基本事業	観光交流の推進	コード	2
予算費目名	一般会計 7 款 1 項 3 目歴史的街並み保存活用事業（001-03）			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	H17 年度
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

盛岡町家を中心とした歴史的街並み景観は、歴史的文化財であるとともに都市観光の推進のための大きな魅力となる要素を持っている。市民や観光客が盛岡の歴史文化と触れ合いながら楽しめる地域として積極的な活用を図ることができるように、歴史的街並みを保存活用するため、鉤屋町・大慈寺町界限地域にある町家等の修景整備を行う。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

平成 18 年 1 月に策定した盛岡ブランド推進計画の中で、主要 4 プロジェクトの一つに「まちなみ景観づくり」を位置づけ、歴史的街並みの保存活用を図り、盛岡らしさがいかされた都市景観の創出を図り、文化性の高いまちとして歩いて楽しめる景観づくりを進めることとした。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

歴史的街並み整備補助金制度の周知が図られ、整備の推進が進んでいる。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が，何が対象か）

地域住民，公開イベントの際にこの地域を訪れる人

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 地域住民	世帯	529	529	529	529	529
B 公開イベントの際地域を訪れる人	人	22,000	20,000	20,000	20,000	20,000
C						

（3）24 年度に実施した主な活動・手順

盛岡まち並み塾と協同で，町家開放事業を行った。

盛岡町家の整備に係る補助金を交付した。

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 町家等の開放イベント	回	8	6	8	8	8
B 町家等の修景整備	棟	4	4	4	1	4
C						

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

地域住民は，歴史や伝統を伝えるまちに住むことへの誇りをもって暮らし続けるようになること。
歴史的街並みを持つこの地域を訪れる人は，盛岡が古くからの城下町であることや水、先人、特産品に恵まれた住みよいまちであることを実感した訪れたいくなること。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A この地区が好き、誇りに思う人々の割合	■上げる □下げる □維持	%	55	55	55	55	60
B 盛岡を住みよい町として訪れたいと思う人の割合	■上げる □下げる □維持	%	80	80	80	80	80
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	101,066	10,342	76,440	10,157
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	75,700	9,300	68,700	9,100
	④般財源	千円	49	1,043	2,340	3,107
	⑤その他()	千円	25,300	0	5,400	700
	A 小計 ①～⑤	千円	202,115	20,685	152,880	23,064
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	800	800	800	800
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	3,200	3,200	3,200	3,200
計	トータルコスト A+B	千円	205,315	23,885	156,080	26,264
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

結びついている

理由：歴史的街並みを整備することにより、盛岡のまちの魅力が増し、盛岡に訪れたいと思う人が増える。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由：歴史的街並み保存活用について市民運動が活発であり、行政のサポートが求められている。

③ 対象の妥当性

妥当である。

理由：計画の策定にあたっては、地域住民の代表者や有識者からなる基本計画検討懇話会を設置し、意見を伺いながら進めている。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。

その内容：当該地域の歴史的街並み保存活用については、市民の関心が高く、またメディアにも多く取り上げられ、大いに注目を集めており、事業の廃止・休止は施策の成果に悪影響を及ぼす。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上の余地がある。

その内容：歴史的街並み整備事業補助金について周知し、早期に整備が進むように努める。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

公平である。

理由：補助金の交付対象は限定されているが、歴史的街並み景観は市民共有の財産であり、また、街並み整備による来訪者の増加の影響は全市域に及ぶと考えられる。

(4) 効率性評価

成果を下げずに事業費を節減できる余地がないかについては、余地はない。

理由：現在の事業費では年間2～3棟の整備が可能であるが、最終的には50棟の整備を目標としており、事業費を削減することはできない。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

盛岡町家の整備を早期に進めるため、説明会を多く実施し、整備に係る補助金の交付件数を増やす。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

景観や道路など当該地域の全体計画とこれまで以上に一体で進める必要がある。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☒ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☐ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

盛岡町家を中心とした歴史的街並み景観は、歴史的文化財であるとともに都市観光の推進のための大きな原動力となりうるし、26年度開館予定の「もりおか町家物語館」などのオープンにより、さらに積極的な活用を図ることができる。今後もさらに歴史的街並みを保存活用するため、町家等の修景整備を行おうとする人が増えるよう制度の周知に努める。